

●三位一体後第五主日

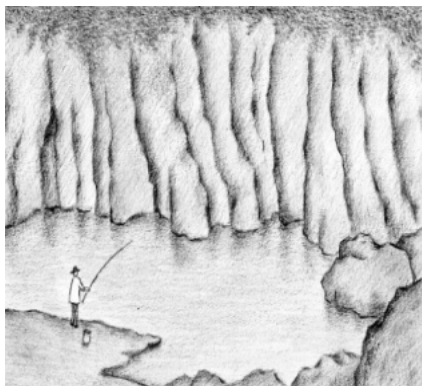
泉のほとり

今月の詩編「第三六編」

悪事を働く者は必ず倒れる。

彼らは打ち倒され

再び立ち上がることはない。



祭司の王国、聖なる国民

「わたしは主、あなたの神」とはじめられた十戒の教えを、これまで確かめてきました。十戒授与の際、雷鳴がとどろき、稲妻が光り、角笛の音が鳴り響いて山が煙に包まれるという恐るべき光景の中で民は震えましたが、モーセはそれが「神があなたがたに恐れをおく」ためであり、「罪に陥らないため」だと教えました。罪を犯すことが最も大きな恐れとなるその良心を抱かせることが、人の命となるからです。昨今の教会は人の内側にある「罪」や闇にできるだけ触れないようにする傾向が強まっていますが、教会が宣べ伝えている福音の原点は「罪からの救い」であり、そこにいつでも立ち返らねばなりません。

エジプトに下された長子の死というわざわいが過ぎ越された出来事から数えて三月目のおよそ四五日後、イスラエルはシナイの荒れ野に到着し、山に向かって宿営しました。そこはかつてモーセが召命を受け、「あなたの履き物を脱げ」と言われた聖なる場所でした。あの時、「私は何者なのでしょう」と躊躇したモーセでしたが、主は全く道のない海を開き、何も無い荒野で糧を与え、雲の柱と火の柱で導かれ、今その山に再び戻っている。主はモーセに「イスラエルの人々に告げなさい。わたしがエジプト人にしたこと、また、あなたたちを鷲の翼に乗せて、わたしのものと連れて来た」と告げられました。

完全な守りと導きを経験した民に、主は「今、もしわたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るならば、あなたたちはすべての民の間にあって、わたしの宝となる」と語られました。この契約は、対等な者同士の契約ではなく、奴隷の家から贖い出された民に、十戒を通して、なおきよく、欠けたところのない者にしてあげようとする、100%恵みだけを内容とする契約です。世界で最も小さい、奴隷の家のものから贖い出し、神の宝という最上位の身分にされると言われた主は「なぜなら全地はすべてわたしのものだから」と、全地に住む民にも、イスラエルと同様の御心があると気付かされる

のです。全地がイスラエルの幸い、輝かしい神の子の栄光を見て、神のものへと立ち返ってくるようにとの願いが表されているのです。

「祭司の王国、聖なる国民となる」と言われました。祭司は人が神に近づくように執りなす者です。祭司といけにえが聖なるものと呼ばれるのは自分自身を人のためにささげるからです。究極的には「祭司の王国、聖なる国民となる」とは、人が隣人を自分のように愛して生きる者となることです。主イエスが弟子たちの足を洗われ「互いに愛し合いなさい。そうすれば皆がわたしの弟子だと知るようになる」と言われた通り、そう生きる国がいかに祝福された国なのか、それが全地に証しとなるためです。使徒ペテロは教会に「あなたがたは、選ばれた民、王の系統を引く祭司、聖なる国民、神のものとなった民です」と語られたように、それが今や教会に期待されていることです。

AIなどが登場し人間が進歩したかのような錯覚に陥る現代でも、根幹にある罪と闇の業は変わっておらず、むしろ人は真の安らぎを求めて渴いています。かつてのイスラエルはうわべだけの「祭司の国、聖なる民」に止まりました。主イエスは、十戒の一つ一つを、うわべだけ守っている民の偽善をあらわにされたことを思い返したいのです。殺してはならないと命じられているのは、血を流す殺人のみならず、人の内側にある人への軽蔑、憎悪、恨み、妬みなど、怒りを伴うそれらの人殺しに目を向けさせてくださいました。その自分に真実に向き合うことなくして、人の白いところだけ見る、闇の部分の白く塗ることでは、何も始まらない。十戒は「自らを与える愛の業」に生きるようにと、導いています。十戒は「自らを愛する業」の前に最も近い自分の足元から始めるようにと語りかけています。毎週、唱和している十戒、一つ一つのこばに向き合い、教会をきよくし、祭司の国、聖なる民として、ご自分の宝としてくださる、この神のこばの確かさを、見ていきようではありませんか。それが全地への奉仕、証しとなることを、この目で確かめて生きたいと願います。

(出エジプト一九章一〜六節 黄允湜 牧師)

《私たちのビジョン》

主イエスの愛の中で、

愛と交わりを通して

お互いに成長する教会

《2026年度

教会全体課題》

神さまによって

示された新しい歩みの中で、

キリストの体として的一致を

祈り求める

ーコミュニケーション、交わり、

伝道、学びなどを通してー

《今日のお知らせ》

○ 信仰者に学ぶ会を地下ホールで行います。聖書、讃美歌をお持ちの上、ご参加ください。

○ 運営委員会、各小委員会がそれぞれ行われます。

○ 五月教会総会記録を配布しました。

○ 二〇二六年度の教会員名簿をひと家庭に一冊ずつ配布しました。更に必要な方は事務所にお尋ねください。個人情報のため、お取り扱いには十分ご注意ください。

○ 七日(火)～八日(水)附属幼稚園の年長クラスのキャンプが奥多摩で行われます。

《ぶどうの会より》

本日、ぶどうの会はお休みです。

《役員会より》

次週七月一二日は、諸聖徒記念礼拝です。ホール集会、愛餐会のあと、教会員懇談会を開催します。状態しに月報と資料が配布されていますので、事前によく読みいただき、当日はそれらをお持ちになつてご出席ください。

《愛餐会班より》

七月一二日(日)諸聖徒記念の日に愛餐会を行います。ロビーの掲示板に申込書を掲示しますので本日まで記入をしていただきます。よろしくお願い致します。会費は四〇〇円です。

《教会事務所より》

汚水槽配管の工事のため、本日地下一階のトイレはご利用いただけません。恐れ入りますが、一階のトイレをご利用ください。宜しくお願いします。

《交 読 詩 篇》

※会衆は太字の箇所を唱和します。

〔司・会〕の箇所は司式者と会衆が合わせて唱和します。

【詩篇三十六篇】 指揮者によつて。主の僕の詩。

ダビデの詩。

神に逆らう者に罪が語りかけるのが
わたしの心の奥に聞こえる。

彼の前に、神への恐れはない。

自分の目に自分を偽っているから

自分の悪を認めることも

それを憎むこともできない。

彼の口が語ることは悪事、欺き。

決して目覚めようともしない、善を行おうともしない。

床の上でも悪事を謀り

常にその身を不正な道に置き

悪を退けようとしない。

主よ、あなたの慈しみは天に

あなたの真実は大空に満ちている。

恵みの御業は神の山々のよう

あなたの裁きは大いなる深淵。

主よ、あなたは人をも獣をも救われる。

神よ、慈しみはいかに貴いことか。

あなたの翼の陰に人の子らは身を寄せ

あなたの家に滴る恵みに潤い

あなたの甘美な流れに渴きを癒す。

命の泉はあなたにあり

あなたの光に、わたしたちは光を見る。

あなたを知る人の上に

慈しみが常にありますように。

心のまつすぐな人の上に

恵みの御業が常にありますように。

神に逆らう者の手が

わたしを追い立てることを許さず

驕る者の足が

わたしに迫ることを許さないでください。

〔司・会〕

悪事を働く者は必ず倒れる。

彼らは打ち倒され再び立ち上がることはない。

《今日の子ども礼拝》

●子ども礼拝（午前9時20分・地下ホール）

説教 「主イエスの最初のしるし」

聖書 ヨハネ2章11～11節

説教者 吉村 和雄 名誉牧師

《次週の礼拝》

●子ども礼拝（午前9時20分・地下ホール）

説教 「主の言葉を信じて」

聖書 ヨハネ4章46～54節

説教者 宮間 彰広 兄

●主日礼拝（午前10時30分・礼拝堂）

讃美歌 69番 488番

説教 「天国を生きる人々」

聖書 マタイ20章1～16節

説教者 吉村 和雄 名誉牧師





主日礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 491番 284番
説教 「主のおしえを生きる幸い」
聖書 詩篇1章1～6節(旧約P.835)
司式 石川 一 兄
聖餐司式 黄 允湜 牧師
説教者 黄 允湜 牧師

前奏曲「我は心より主を愛す」 J.P.スウェーリンク

○讃美歌491番

- 1.きよき朝よ たのしき日よ
世のちりよりしばしはなれ
つきせぬよろこび うくるぞうれしき
- 2.主はさかえの みくらにつき
きよき民を おさめたもう
つみあるひとびと かしこみおそれよ
- 3.みたまの鳩 ここにくだり
主のめぐみを とくしめして
われらのこころを あらたにしたまえ
アーメン

○聖歌隊による讃美

「バビロンの流れに」 G.P.ダ・パレストリーナ作曲
流れゆくバビロンのほとりに
我ら座し
涙流して泣けり
はるか思いをシオンに馳せ
琴を柳の木にかけ
我ら涙流し泣けり

○讃美歌284番

- 1.主のとうとき みことばは
わがいのちの もといなり
たよるわれは 安けしや
世にまたなき みことばよ
- 2.「ただ我のみ 汝が神ぞ
おそれず行け ためらわで
ちからつよき わがかいな
なれにそいて はなれじな
- 3.なやみの火は 燃えあがり
なげきの河 あふるとも
めぐみの手に すがりなば
つねに勝ちて あまりあらん
- 4.老いの坂を のぼりゆき
かしの雪 つもるとも
かわらぬ わが愛におり
やすけくあれ わが民よ」
アーメン

聖餐曲「いと高きにある神にのみ栄光あれ」 J.S.バッハ

後奏曲「プレリュード変イ長調」 F.メンデルスゾーン